



あかつき新聞



第98号

2026年
1月

あ か つ き 印 刷
発 利用者懇談会世話人会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-2 APビル
行 TEL03-3497-0531 FAX03-3497-0043
ホームページ <https://www.aik.co.jp/>

武力に頼らない真の平和を

昨年10月27～29日、トランプ大統領が来日し、高市首相は首脳会談で「同盟の新たな黄金時代を共に作り上げたい」と防衛費の増額や米国製武器の購入に応じました。それぞれの思惑や平和外交について、東京平和委員会の岸本正人事務局長にお話をうかがいました。



東京平和委員会 岸本正人事務局長

高市政権とトランプの思惑

安倍政権の中でも右寄りと言われていた高市早苗さんが自民党党首となり、総理大臣になりましたが、総理就任したばかりの高市氏が迎えた、アメリカ大統領ドナルド・トランプ氏の訪日。そして、日米首脳会談。しかし、会談後、慣例となっていた共同声明はありませんでした。

じつは、今回の日米首脳会談での取り決めは、あまり公表されていないのです。その場で何が話し合われたのか。いったいトランプ氏は何を日本に突きつけていったのか。これはまだ、ブラックボックスのグレーゾーンで明らかになっていませんが、前石破政権時に要求されていた関税問題と防衛費の増額だと考えられます。

関税問題では、関税の負担を日本がどう引き受けていくのか。加えて、80兆円の対米投資についてです。そして、防衛費の増額。高市氏はトランプ氏の訪日を前に、さらなる防衛費増を視野に入れた安全保障関連3文書の前倒し改定を指示する方針を示しました。本来、27年度に達成するはずの防衛予算11兆円を本年度中の補正予算で組み込んでいく。現在、防衛予算は9兆円まで増えていますので、それに2兆円プラスするのがアメリカと約束した大きな内容だとみています。

日本とアメリカの間では、アジア地域の有事の際にはアメリカ支持のもと、日本が自主的に参戦していく体制を作るよう、おそらく昔から話が出ていたと推測されます。それを本格的に意識させられた。日本近海の防衛は日本が責任を持つよう明言されたのだと思います。軍事力なくして平和はありません。でも、アメリカは自分の財布から金を出したくない。だから、日本が金を出さないといわれています。

前石破政権で、すでに巡航ミサイル・トマホーク400発などをアメリカから購入することを約束しました。高市政権では、三菱重工や川崎重工などの日本企業による兵器の増産を目指しています。アメリカからトマホーク400発は購入するけれども、今後は日本製トマホークもつくっていくし、長距離射程のミサイルもほとんど国産化していくと。それに合わせて、防衛兵器の輸出制限を緩和し、日本産の兵器が海外に輸出できるよう動いているといわれています。

実際、オーストラリアが空母の護衛艦的役割を果たすイージス艦11隻を日本の企業に発注しました。愛知県では、防衛産業に関わる下請け会社が工場の増設を始めています。今後、日本政府は防衛産業の下支えする企業を育てることに注力していくでしょう。

これは個人的見解ですが、アメリカは日本に兵器を作らせて安く買い上げようという思惑があるような気がします。80兆円の対米投資のなかで日米共同開発という名のもとに兵器をつくる、なんてこともあるのではないのでしょうか。

では、平和外交を始めるにあたり何が大切なのか。それは、日本が過去におこなった他国への侵略に対し、反省を示すことではないでしょうか。加害者側ではなく、被害者側としての反省を未来へ向けて活かしていく。次世代の日本を考えると、日本政府が真摯に外交に向き合い、国際友好国をつくっていくことがいかに大切ではないかと思うのです。

▲昨年の参議院選挙も「改憲」を掲げる新政党が躍進。この国はどうなっていくのか、暗澹たる気持ちになる。が、この5年間の選挙結果を見ると「自民党は得票を710万票減、維新の会も370万票減。これは2015年、大きな安保法制反対運動以降、押し返している結果」との指摘に、時代を捉える眼力を見る。▲もしもを現実、眼力を鍛え、午のように躍動、前進する年にしたい。

防衛費増額、財源どこから

この防衛費増額の財源はどうするのか。日本政府は増税や医療費負担の割合を見直しせずに、別財源でまかなうとしています。とにかくコストカットで財源をと。ですが今後、アメリカは防衛費をGDPの3.5%。そして、GDPの5%に増やすよう要求してくると思います。おそらく、日本政府は、27年度までに防衛費予算をGDP3.5%。その後の見直しでGDP5%にしていくのではないのでしょうか。高市政権は国債の発行はないといっていますが、では、いったいどこからその財源を持つてくるのか。

結局、増税しかないのです。消費税を1%上げると、およそ2兆円の財源が増えるといわれています。ですの、消費税でそれをまかなおうとした場合、消費税20%超えの時代がくるかもしれません。

戦争が起きてもべつにどうも思わない、といううなことになるかねません。そういった危険性が、今回の日米首脳会談の中身に入っているのではないかと思います。

もしもこの国が軍拡ではなく、命と暮らしに向いたなら。もしもではなく、そういう国にしていかなくては、とあらためて強く心ずる新年。▲戦火のガザ、ウクライナを思う。だが、戦後80年を過ぎた日本もそれは外の話ではない。昨年10月に発足した自民・維新の高市政権は、「存立危機事態」「スパイ防止法」、いつの時代に属するのかわからない「国旗損壊罪」と矢張り早に打ち出す。これらは、不戦、人権尊重を銘記する日本国憲法を踏みにじるものだが、その高市政権は高支持率という。

▲昨年の参議院選挙も「改憲」を掲げる新政党が躍進。この国はどうなっていくのか、暗澹たる気持ちになる。が、この5年間の選挙結果を見ると「自民党は得票を710万票減、維新の会も370万票減。これは2015年、大きな安保法制反対運動以降、押し返している結果」との指摘に、時代を捉える眼力を見る。▲もしもを現実、眼力を鍛え、午のように躍動、前進する年にしたい。

平和外交に大切なもの

そこで、2026年のキーワードになってくるのが「武力に頼らない平和は可能か」ということ。そのためには、積極的外交を進めていくことが日本の未来を考える上で重要だと考えます。

では、平和外交を始めるにあたり何が大切なのか。それは、日本が過去におこなった他国への侵略に対し、反省を示すことではないでしょうか。加害者側ではなく、被害者側としての反省を未来へ向けて活かしていく。次世代の日本を考えると、日本政府が真摯に外交に向き合い、国際友好国をつくっていくことがいかに大切ではないかと思うのです。

▲昨年の参議院選挙も「改憲」を掲げる新政党が躍進。この国はどうなっていくのか、暗澹たる気持ちになる。が、この5年間の選挙結果を見ると「自民党は得票を710万票減、維新の会も370万票減。これは2015年、大きな安保法制反対運動以降、押し返している結果」との指摘に、時代を捉える眼力を見る。▲もしもを現実、眼力を鍛え、午のように躍動、前進する年にしたい。



横田基地にオスプレイはいらない11・23東京大集会 (写真提供: 東京平和委員会)

編集横丁

へもしもの地上に落とされたものがミサイルではなく、本やノートであったなら：「ねがい」。



上段左から 田川誠(画伯) 深澤慎也(画伯) 津田利之(ラジオ局ディレクター) ドリアン助川
下段左から 助川紗和子 藤崎美智子 廣井みどり



紙芝居「わたしの命の物語」

「入所者にとって
はなくてはならな
い食堂なんです。
一般のお客さん
を呼んで営業を
続けたい」と経
営を依頼されま
した。私は迷い
ましたが樹木希
林さん

8年前私は、「全国
ハンセン病療
養所入所者協
議会」の事務
局長を務めて
いた藤崎陸安
(みちやす)さ
んと再婚しま
した。入籍の
ときに、陸安
さんから「自
分が今生きて
いる意味は、
仲間のため
に働くこと。
そしてハン
セン病患者
が体験した
過酷な偏見
や差別が二
度と繰り返
されないよう
に伝えるこ
と」

これを大切に
していると聞
きました。結
婚後、私たち
は人権学習の
きっかけとな
る紙芝居を作
る夢を持ちま
した。6年の
歳月が経ち、
絵は友人のペ
トロアンドヨ
ゼフ(田川誠
さん・深澤慎
也さん)が描
いてくださり、
脚本はドリア
ン助川さんが
心に沁みる言
葉を紡いでく
ださいまし
た。2023年、
夫は完成を見
ることなく旅
立ちました。

亡くなる直前まで、
「憲法違反の裁判によ
り死刑が執行された菊
池事件でのF氏の名譽
回復をしなければハン
セン病問題の解決は終
わらない」と語ってい
ました。
人権問題の根底には
共通して偏見と差別が
あると思います。
ハンセン病も、新
型コロナ感染症の時
も、偏見や差別が生
まれました。
一人でも多くの
人が、この紙芝居「わ
たしの命の物語」に
触れて、生きやす
い社会を
考え、目指してほ
しいと願っています。



お食事処なごみにて



結婚記念写真

差別や偏見のない社会を 目指してできること

藤崎美智子

絵手紙のすすめ



絵手紙を月に2通
も描きくれる季節の
花の絵四年となり
知り合いが私のこ
とを詠んだ短歌で
す。短歌会の例会で
手紙・葉書のお題
だったと教えてくれ
ました。
絵手紙を出すたび
に葉書やメールで近
況などを、また切手
や食べ物を送って
くれる人もいます。私
はその一つひとつの
好意に感謝をしなが
ら一日に一枚の花を
写生して絵手紙に描
いて、送っています。
そして、絵手紙で
つながった交流をこ
れからも大切にしてい
きたいと思っています。
(加藤 茂)

映画評

ペリリユー 楽園のゲルニカ

パラオ諸島の南部、自然豊か
で美しいペリリユー島で194
4年9月15日から始まった日米
の戦闘では、日本軍1万名のう
ち最後まで生き残ったのは34名
のみで、米軍も4万名のうち1
万6千名が戦死しました。
そのペリリユーにいた21歳の
田丸は、絵が得意だったために
亡くなった兵士の「最後の雄姿」
を遺族に伝えるための記録係
「功績係」を命じられます。
砲撃や爆撃、銃撃によって無

残に死屍累々となる陣地。戦死
だけでなく、「生きて虜囚の辱
めを受けず」という日本軍の戦
陣訓の下に殺害される傷病兵や
投降しようとする兵士に向けら
れる銃口などが描かれます。
3頭身にデフォルメされたかわ
いいうキャラクターで、戦争の
悲惨さ不条理さがより鮮明に
なっています。
原作漫画の作者武田一義が脚
本にも参加。監督は久慈悟郎。

(伴)